博物館リフォームしましょ！

知床博物館は開館後23年がたち、さすがに常設展示室の古さが目立ってきています。本当ならば開館20周年あたりで展示更新といきたいところなのですが、諸処の事情によりできずに３年が過ぎてしまいました。そこでボランティアの助けを借り手作りの展示改良を行うことになったのです。いくら手作りといっても材料費など若干の費用は必要ですが、それは文部科学省から委嘱を受けた「親しむ博物館づくり事業」をあてがいました。

１月18日、第１回目のボランティアを募集しました。はじめてなので内容は説明会として、タイトルは「博物館リフォームしましょ！」。本来は職員でやらなければならない作業を有志の手を借りて行うという、こんな虫の良い企画にいったい何人の人が来てくれるのか不安でした。実のところ申込者はわずか５名だったのです。

ところが当日は25名もの人が集まってくれたのです。参加者は男女半々で年齢は高校生から70歳代の熟年まで、職業もいろいろでなかなか幅広い人たちです。あとで事前の申し込みが少なかったのは、新聞に折り込んだチラシに「申し込み必要」と書いていなかったためと判明しました。

説明会では学芸員が１階の考古・アイヌ・歴史・民俗、２階の植物・哺乳類・鳥類の各分野の展示構想を述べた後に展示室を見学。展示室ではいつものお客様向けの解説ではなく、うち明け話がいくつも飛び出し聞く方も話す方も熱が入っていました。博物館の展示室というのは常に改善点があるもので、職員はいつもそれを気にしています。しかし日常業務優先のため、なかなか手が着けられずにあり、心情や内部事情を話すのは、学芸員の悶々とした気持ちの発散にもなった？

さて、「親しむ博物館づくり事業」の委嘱期間は３月までですが、常設展示室の改善事業は来年度以降も継続して行います。これまでに具体的な作業の説明会を２回、網走の博物館視察を１回実施し、現在種々の作業に入っています。ボランティアの募集は随時行っていますので、興味のある方はお問い合わせください。今後の日程についても博物館までどうぞ。　（宇仁義和）

◆　流氷とオオワシ　ハガキ

海を覆う真っ白な流氷。まるで白い陸地が続いているようにも見えますが、山から大風が吹くと一晩でまた海が現れます。流氷で開水面がなくなって居なくなっていたオオワシ達がどこからともなくやってきて、そんな海を海岸沿いの木の上から眺めています。
この風が吹くと海が開くな。と彼等はちゃんと知っているのですね。自然からのメッセージよりついつい天気予報に頼りがちな自分を反省。
今回同封したハガキ、流氷原を舞うオオワシはまさにここならではの風景ですね。窓口で一枚７０円で販売しています。季節のご挨拶などに是非ご利用下さい。

タンネウシ今月号はいかがでしたか？
今月号で澤口の編集担当は終わりです。気が付けば５年間と長い間担当させて頂き貴重な体験ができました。たまにいただく皆様からの感想が励みになりました。ありがとうございました。（澤口）

発行　知床博物館協力会　2002.2.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49　斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/